

IMF Survey

専務理事の指名

2名の IMF 専務理事候補

IMF サーベイ・オンライン

2007年8月31日

- ・ ロドリゴ・デ・ラト氏の後任専務理事の指名受付が8月31日に締め切られた
- ・ 欧州連合はドミニク・ストロスカーン氏を、ロシアはヨゼフ・トショフスキー氏を指名した
- ・ IMF 理事会は候補者との面談を実施したうえで、次期専務理事を選定する



ストロスカーン氏（左）とトショフスキー氏（右）。IMF 理事会がラト氏の後継者を選定する。（写真：SIPA、Bazuki Muhammad/ロイター）

ロドリゴ・デ・ラト氏に代わる IMF 専務理事候補の指名受付は8月31日に締め切られ、ドミニク・ストロスカーン氏とヨゼフ・トショフスキー氏の両名が指名された。IMF 理事会は9月中に候補者の面談を行ったうえで、ラト氏の後任を選定する。新専務理事は、2007年 IMF・世界銀行総会終了後に辞任するラト氏の後を引き継ぐ。

ストロスカーン氏（58歳）はフランスの元蔵相で、今年初めには同国社会党の大統領候補の座を争った。7月10日に欧州連合から IMF 専務理事候補の指名を受けた。同氏は1991年から93年まで産業・通商大臣、97年から99年まで大蔵大臣を務めた。

トショフスキー氏（56歳）はチェコ共和国の元首相で、現在は国際決済銀行の金融安定化研究所の所長を務めている。8月22日にロシアから候補指名を受けた。同氏は93～97年と98～2000年の2度にわたりチェコの中央銀行総裁を務めたほか、98年に首相となった。

IMF 理事会は[声明](#)でこう述べた。「フランス国籍で、同国の元蔵相であるストロスカーン氏は、欧州連合諸国を代表する複数の理事の総代としてドイツの理事クラウス・シュタイン氏から指名された。チェコ国籍で、同国の元首相および元中央銀行総裁であるトショフスキー氏は、ロシア連邦の理事アレクセイ・モージン氏から指名された。

「理事会は、各候補者とその職歴と資質に基づいて検討する。（[プレスリリース No.07/159](#)を参照） 来る 1 ヶ月間で、理事会はワシントン DC で候補者の面談を実施した後、各候補者の優れた点について協議、次期専務理事を選定する。」

2004 年に専務理事に就任したデ・ラト氏はこの 6 月、2007 年の年次総会終了後の 10 月に専務理事を辞任する意向を明らかにした。

本文は「IMF サーベイ」誌 (www.imf.org/imfsurvey) の記事の日本語訳。